

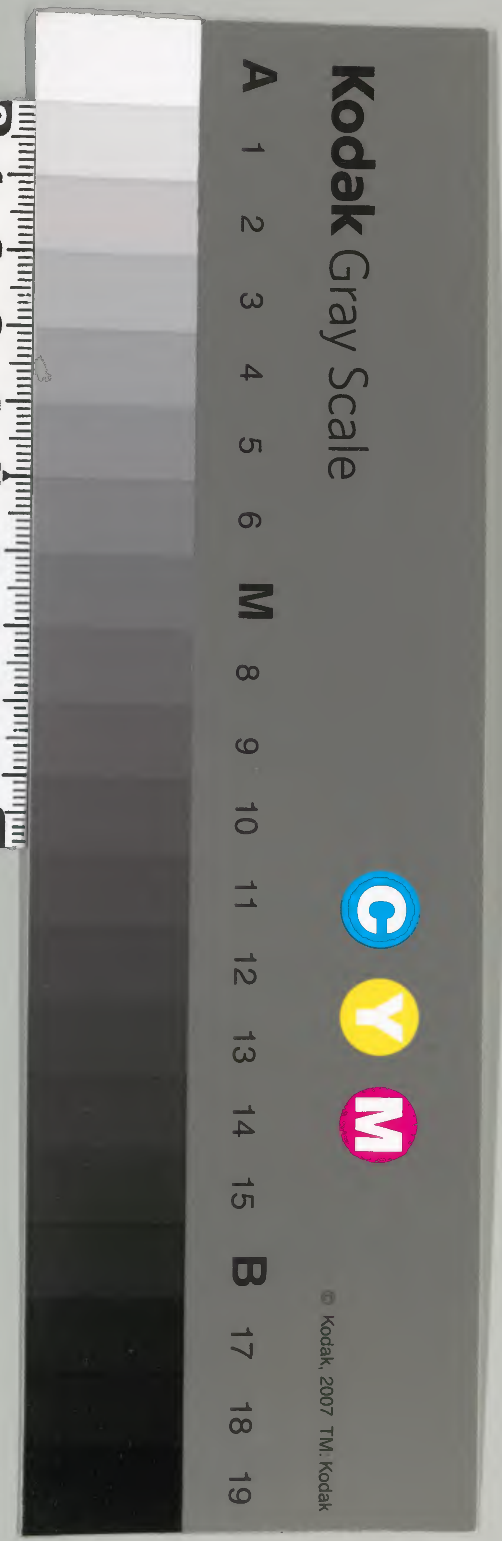
棠蔭秘鑑

利

和書門			
二八五三九	九	一	
號	函	架	冊

內閣文庫			
二八五三九	四	一	二
號	冊	函	架
(三本)			

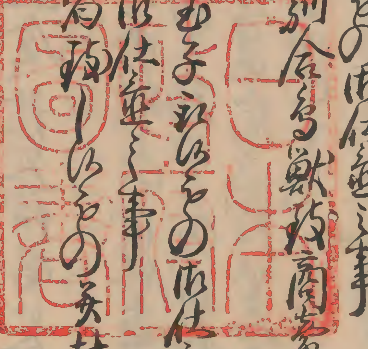
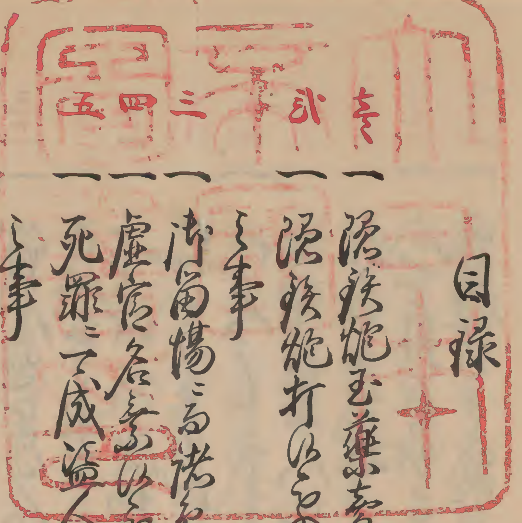
內閣文庫	
番號	和 28539
冊數	4 ( 3 )
函號	181 89





目録

- 一 一 諸務能く進ませらるるの由仕由事
- 一 二 諸務能く打ゆゑのと別命を黙致商賣ゆゑの由仕由事
- 一 三 清濁場なる諸事ゆゑの由仕由事
- 一 四 虚言各事ゆゑの由仕由事
- 一 五 死罪にて成商人を宥めしゆゑの由仕由事
- 一 六 祈禱の奇瑞らゆゑの由仕由事
- 一 七 化し金子盗れし得共たまは難成させし由仕由事
- 一 八 借金根に合者金まゝに合し合し利を押返金  
横取しゆゑの由仕由事
- 一 九 夫若に逢ひを遠根なる人抵付ゆゑの由仕由事
- 一 十 火を附ゆゑの由仕由事
- 一 十一 非人法外に意外しゆゑの由仕由事
- 一 十二 人を殺し時命まゝの由仕由事
- 一 十三 懐胎女強奪ゆゑの由仕由事
- 一 十四 尚存と論じし合の由仕由事
- 一 十五 此の由仕由事
- 一 十六 久難く免れたの親宅に去り殺自滅命威ゆゑの由仕由事
- 一 十七 申返放成しし根根を扱ゆゑの由仕由事





一六 一 酒米を沈溺死せしもの事  
 一五 一 酒米を沈溺死せしもの事  
 一四 一 盗物と不存債とを金に代りしもの事  
 一三 一 科人懐中へ金とを盗りしもの事  
 一二 一 書入に爲る地面を賃地とすもの事  
 一一 一 掘穴文とを存取官致し各主の事  
 一〇 一 書入に爲る約米を金子内借ししもの事  
 九 一 牌を巡狩ししもの事  
 八 一 親を代裁許ししもの事  
 七 一 途平に爲る病死ししもの事  
 六 一 巧の成りしもの事  
 五 一 貸金をせまふ人の逃合に論文致すもの事  
 四 一 似る人にて成りしもの事  
 三 一 祿より事致ししもの事  
 二 一 知人もししもの事  
 一 一 乱心する人切殺ししもの事  
 一〇 一 乱心する親を斬りしもの事  
 九 一 人を殺しし首を盗りしもの事  
 八 一 密通する事

三九 一 河門番に法外致ししもの事  
 四〇 一 人を殺しし其居宅を焼くもの事  
 四一 一 此の事  
 四二 一 此の事  
 四三 一 此の事  
 四四 一 此の事  
 四五 一 此の事  
 四六 一 此の事  
 四七 一 此の事  
 四八 一 此の事  
 四九 一 此の事  
 五〇 一 此の事  
 五一 一 此の事  
 五二 一 此の事  
 五三 一 此の事  
 五四 一 此の事  
 五五 一 此の事  
 五六 一 此の事  
 五七 一 此の事



五六一 遺恨を謀書ししゆりの由仕重事

五六一 謀書て殺ら不存り得る村人へ下敷白紙押せ  
貫の由の由仕重事

六一 所通に重祇を願ひしと致す其後お果し付お家  
由仕重事

六一 武士お家と伊構場不圖と構通放し付百姓  
由仕重事

六一 女房法外有し付切殺しとの事  
俗人十念に付成教人の致は授れ物としゆりの  
由仕重事

六一 他屋お初め女と致す舎いと親元と兼り貫を  
男由仕重事

六一 村人お下人由信家お流文お上ゆりの由仕重  
事

六一 友人の原を殺附打殺しおしはししし石作りお果  
し武不事との由仕重事

六一 是白引伊國不の外不存致し殺し女と事  
主人と妻伴と有る由ゆりの由仕重事

六一 宇内と因人お定を省いと及見お至味と事  
成り後し付由仕重地との事

六一 切開たお致しお然と事  
主人と伴と他との服を殺及握不しゆり左を握  
淋る抜力と打落し連との由付殺しとの事

六一 山崎におお赤有る由松本抜落中腹居ゆりの由  
お果しとの相と事

六一 伯父にお重キトをりゆりの由仕重事  
武家にお家お不し不礼質重主流人成り成  
し付由仕重事

六一 遠國をゆりお武家にお家不存と事  
入書を指しゆりの由仕重事

六一 主人お親と有る由ゆりのゆり侍事と事  
願主地におお門前にお大勢お浩強ゆりゆりの  
由仕重事

六一 人の底付にお武家にお家由仕重事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



き 隠決能玉薬考の事の由仕置之事

延享二五年四月

一 隠決能玉薬考の事の由仕置之事

隠決能打の事  
乍存考の事  
五科

二 隠決能打の者と列合多獸之商賣の事の由仕置之事

延享二五年九月

一 隠決能打の者と列合多獸之商賣の事の由仕置之事

五科

三 御前場なる所より玉子取の事の由仕置之事

延享二五年六月

一 御前場なる所より玉子取の事の由仕置之事

五科三貫文

四 盧官各々の事の由仕置之事

延享二五年正月

一 盧官各々の事の由仕置之事

五科

五 死派了成並人と宿の事の由仕置之事

延享二五年正月

一 死派了成並人と宿の事の由仕置之事















伊勢浦私少し胸を痛し宿とゆふもあしお果の由  
由度は得ず相多し七胸とる由度は得ず打合の由  
伊勢浦にありぬ私にけり存る不し勿論伊勢浦に  
不存るの由も存るも存るも存るも存るも存るも  
存るも存るも存るも存るも存るも存るも存るも  
主人存るといふ事不存るも存るも存るも存るも  
は論極合の由伊勢浦胸に強くありもあしお果  
の付下り人下り付りお同

伊勢浦  
けりとの及ん具未指事事事事事事事事事事事  
事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事  
事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事  
事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事  
打合し候も事事事事事事事事事事事事事事事

十五 伊勢浦に國邊金を以て其土地に付て首の  
の仕置事

寛保元四年十月仕置劇 相判新田宿村  
元名三 半左衛門 新左衛門

伊勢浦に國邊金とて年々以て其土地に  
し得ず延る劇迫私欲とて不致分中一其地以て  
とも不致年貢亦お排し候不致仕置事土地に  
水帳取出の概り付し候及後後不届付候事延放  
新左衛門も同様し候水帳ハ不届付候事延放  
不届付候事延放お同新左衛門ハ同様し候事  
延放事

半左衛門の故地は對一別る不届との事死罪も  
一付付し得事令用中延放中付若延海の  
死罪中付付中付海に候事延放事

十六 久羅に免れたる親宅とて後自滅多し感  
の仕置事

寛保元四年十月仕置劇 武州西ヶ原村 後 七

以後七代不届との事存出候の事親初親初  
親久羅免れたる親存念と親宅事并同村  
姉嫁事存候方より服を被り後自滅多し  
感一の仕置不届付候事延放中付付候事  
延放事

十七 中延放に成の上服を被り候事延放  
の仕置事

寛保二四年七月仕置劇 上総國牛久保村 宇左衛門

伊勢浦に成先達を以て戸表と不届事  
成候事以後酒解親初同國野尾村十  
余十代に成先達を以て戸表と不届事  
及台論服を被り候事延放中付付候事  
中付候事



津島

けこのけも遠海なるハ世に死罪可中付合  
ハ作酒也事

十六 酒松劣況溺死之ものなる水至市仕置事

野副五郎村本町

組次

万大徳

寛保二戌年九月仕置例

田圃借宿村

組次

茂大徳

け者長田圃酒良津門酒松市目人仕置之例に依り  
酒松或被之酒米の得夫を被破破酒府を被之酒  
酒松也和七酒市日人太勢之等之馬を以て酒松  
川中と馬務キ酒傾キ溺死之ものなる不届り酒松  
兼る貸本酒松の酒村之もの酒を濟之酒松及  
借残多之酒松大勢之等之酒松酒松酒松酒松  
酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松

十九 酒松劣況溺死之ものなる村人仕置事

野副五郎村本町

組次

安大徳

寛保二戌年九月仕置例

田圃借宿村

組次

又大徳

組次

忠大徳

けこの酒良津門酒松市目人仕置之例に依り  
酒松或被之酒米の得夫を被破破酒府を被之酒  
酒松也和七酒市日人太勢之等之馬を以て酒松  
川中と馬務キ酒傾キ溺死之ものなる不届り酒松  
兼る貸本酒松の酒村之もの酒を濟之酒松及  
借残多之酒松大勢之等之酒松酒松酒松酒松酒松

酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松  
酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松  
酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松

廿 盗物と不存貨之酒松酒松酒松酒松酒松酒松

寛保三亥年同月仕置例 酒松酒松酒松酒松酒松

けこの酒良津門酒松市目人仕置之例に依り  
酒松或被之酒米の得夫を被破破酒府を被之酒  
酒松也和七酒市日人太勢之等之馬を以て酒松  
川中と馬務キ酒傾キ溺死之ものなる不届り酒松  
兼る貸本酒松の酒村之もの酒を濟之酒松及  
借残多之酒松大勢之等之酒松酒松酒松酒松酒松

廿一 村人懐中之金子と酒松酒松酒松酒松酒松

酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松酒松











以五三浦成回國上平野村法古其方病年公傍軍  
女七よと病年通の寄傷産之在故以付回國  
言出村之長の母方の連系の途途申与さよお果  
以家室初懐胎以故五三浦子与千とさよお傍歩  
在の故死體を指以の成も難成回國小計村皆  
持在の故不仁之仕形とさよお未果内捨也も不交  
五三浦遠隔了付外とお伺  
申候事  
重致之と定て追放

共 隠地并赤年貢地永代買入外候事

延享元子年四月内仕在劇 後判長瀬村 久 八

以久八父方其の隠地永代買入久八後南村隠地  
三町歩程給不届付隠地八中追放了付外

回村 百姓即檢取人

以者先祖父親之代久八親各其の方其の隠地之買入  
之内少と宛渡後南村赤年貢不届付不届付  
不届付内度其の隠地八中追放了付外

回國川之江村 江村其の

以江村其の親江村其の赤年貢地永代買入不届付  
内度其の赤年貢書之商人不拂子回羅とさよお不拂

可中付外

回國古渡村 傳 七

以傳七及親式古其の赤年貢地永代買入不届付  
以各赤年貢書之買入之地不届付商人各科子回羅と  
さよお以各永代買入之地不届付了付外  
右と通とお伺  
赤年貢

以地之事中追放之定は猶大不届付者長  
年各其成其方とさよお不届付事人其の上陸分  
少分と地面は其の隠地八中追放了付外  
及右赤年貢事

赤年貢地古細永代買入之買入之たとの其も  
回羅之成は各永代買入之地不届付了付外  
及右赤年貢事

共 松欲之と謀書之の仕在事

延享元子年四月内仕在劇 言田古其の

以松欲之の依山其の赤年貢地不届付  
百姓其と思直候事其の門は張訴状以之候事  
赤年貢不届付之候事其の赤年貢地不届付  
中其の仕方とさよおの赤年貢者之頼村之訴状思之

元依出赤年貢元其の代  
南村石系其の赤年貢



張許状よりいへば不届の度は引越して獄門に付  
以得たけとの中言紙を以て代火に燃せしむる方  
不届の候も取知の事には得たけ候を以て遠慮可  
し付の候とお伺

私欲を以て人を殺し謀害を認むる物とて是れ  
之巧故めいと重き死罪に決り候はば人の傍に  
私曲を可許ぬめ百姓に許状に認むるは誰と  
念及も不届の候も人の殺候も之例に謀害  
徳勝之事には此の各を認ししる者も私  
意根を念ふは百姓に許状に認む候は常  
に之不届合當候遠放

三 巧の候もそし不届 公儀の候と仰り候もの  
由仕候之事

延享元子年六月由仕候之例 下柳宗目 万右衛門

け万右衛門小島平七候致盗入候。成以和文の盜致南  
より入室中付候候と氣に毒に存元盗人仲言を看  
八三郎に初逢候八三郎と捕平七入屋以て後盜止  
此指に致し候八三郎と捕三を以て和逸去り中致  
以付加候久松右衛門組役人の由致を公儀を  
捕候仕候不届は火候も巧の候もそし一人に力  
不及種候不届組役人より由中候候付中遠放  
下付候とお伺を通候 作候之事

三 貸金を以て公人の此金に論文致指の金に借りて人  
由仕候之事

延享元子年六月由仕候之例 芝田町三目 作云清

け候に備候三田町三目芝田町の日候候借りて論文を  
貸付元利を以て金言三拾兩候。成以和致候候  
以得たけ不届候付借し金に在候はるは一年あ度  
之裁許に成候七左衛門を以て公人にてし。此金に  
論文致指候芝田町三目目仁候借と論文にてし。据  
論文に在候七左衛門を以て借候不届に据。付死罪  
下付候とお伺を通候 作候之事

三田町三目 七右衛門

け七左衛門候借候借方公借りて論文を以て借りて元利  
を以て返渡候。成以公人にて此金に致候。下  
依に借中少の付借り金借りてお遠候。是れ通  
論文得候は。不届候候不届に候。家初より  
借りて論文を以て金言子に借りて論文にてし。借り  
候白紙を以て金言子借りて由仕候。成以和書に  
互利に貸文下付候とお伺を通候 作候之事

芝田町三目 仁云清

け仁云清候借候借方公借りて論文を以て借りて元利  
を以て返渡候。成以公人にて此金に致候。下  
依に借中少の付借り金借りてお遠候。是れ通  
論文得候は。不届候候不届に候。家初より  
借りて論文を以て金言子に借りて論文にてし。借り  
候白紙を以て金言子借りて由仕候。成以和書に  
互利に貸文下付候とお伺を通候 作候之事



















寛保二戌年十月庚午例 式則古溪田村 吉祥寺

古義六云宗

以吉祥寺成田國小金井村空室の兄云云成  
南春金子云心中の在債を以て後し其  
押多借り後座有申ありし以て不届との故迄  
以得夫生死に成不存有吉祥寺維中 同村  
源亮店酒を平六方云云酒の碎り空室  
吉祥寺繩をけ寺に連来り服をむね  
打殺の事互社門に清見留を以て益成入由  
村中集り以て平六源亮と兼る云云の  
系り以て親殺母の系り以て沙汰仕る  
組隊与一太夫の百姓云云のし  
逢の貴教の成にお流し返拂り由り  
この先のしと通し得るに依り  
以て右太夫人のしと死骸を仕  
くくり付利根に拾はせり  
見留之由り付再忍治成  
以得及不及白状の由り付  
お見の由り死罪下付  
以事

四十三 言欄に極宝株を度益以の  
女房の仕進之事

寛保三亥年八月申例 駿府浅間宮中 九太清

四人女房 志由ん

以九太清の成浅間山宮言欄に極宝株を度益以  
不届有入雲に中返放志由ん成たに  
不届有戻不届有戻不届有戻と駿府町  
お向て通は 作清之事

四十四 礼心と火を附し女房之事

今言馬娘

寛保三亥年十月申例 甲州鹿田村 川

以之川成亥年以前  
作之井仁太夫の方  
證之事不斗面白存  
仁太夫の居宅庇  
主人妾傍  
主之狂氣  
清

南多守内  
金太夫の才  
作清之事

四十五 一旦礼心致し  
之事



寛保三年十月在龜川 甲別莊田村 金大徳

金大徳

田村

此の長城金大徳根之門一旦取乱れ公事  
不始付金大徳の意は附しなく人急度  
此道下旨甲府勤番大配お伺し通は  
作渡

果六 投網場より後地指長いとのと捕らぬの事  
野田

延享三年十月在龜川 下後園井戸村 森右所

此の長城金大徳根之門一旦取乱れ公事  
不始付金大徳の意は附しなく人急度  
此道下旨甲府勤番大配お伺し通は  
作渡

果七 非人虚を信と打殺し仕置事

延享三年十月在龜川 下後園下言井村 三人 助

此の長城金大徳根之門一旦取乱れ公事  
不始付金大徳の意は附しなく人急度  
此道下旨甲府勤番大配お伺し通は  
作渡

果八 非人虚を信と打殺し仕置事

延享三年十月在龜川 下後園下言井村 文右清門

此の長城金大徳根之門一旦取乱れ公事  
不始付金大徳の意は附しなく人急度  
此道下旨甲府勤番大配お伺し通は  
作渡



四九 お遊を致打擲お果りと存外は捨り命存命に在る  
いものお子也仕重之事

延享三寅年十月也仕重之劇 武州久喜山村 新入 六

以新六儀同園大宮前新田法之清因村光明寺方  
立本を書入十日限と約束する借法の人金あり陀人  
お三の當日限も修くお遊は光明寺儀及僅儀金  
不お修の書入の立本を成り下白と新六の書出  
ゆる本と成成ゆる程成り修と清新六迄延  
光明寺と致打擲お果りと存外は捨り命存命に在る  
修りしと大勢なる打擲し一は清と其の例  
ゆるお果の儀と存外は捨り命存命に在る  
陀人にお三の書入の立本を成り下白と新六の書出  
再修打擲及ゆると存外は捨り命存命に在る  
は清と光明寺存命に在る新六迄遠修り下白と  
お遊

湯屋  
死罪

但修と清儀は修味と内牢死

五十 お遊を致打擲お果りと存外は捨り命存命に在る  
由仕重之事

延享三寅年十月也仕重之劇 武州久喜山村 三所云清 六

いもの長同村光明寺方同園大宮前新田法之清  
借法の人金あり陀人にお三の書入の立本を成り下白と新六の書出  
再修打擲及ゆると存外は捨り命存命に在る  
は清と光明寺存命に在る新六迄遠修り下白と  
お遊

五十一 横にいものお遊を致打擲お果りと存外は捨り命存命に在る  
由仕重之事

延享三寅年十月也仕重之劇 上後園庭並村 茂平次

以茂平次儀を宿修り清深本修一及致中お遊  
利教村の人おし不お届窓に捨り命存命に在る  
不届は清と修り清儀と存外は捨り命存命に在る  
親教費し久難しと存外は捨り命存命に在る  
不及下多人重返致下付外とお遊と通は  
作酒之事

五十二 人殺しと修り不致は清と修り死骸を捨り命存命に在る  
由仕重之事

延享三寅年十月也仕重之劇 上後園庭並村 清云清

以清深清儀を宿修り清深本修一及致中お遊  
同村茂平次利教の人おし不お届窓に捨り命存命に在る  
之は不致は清と修り清儀と存外は捨り命存命に在る



死骸遺棄は拾ひ所不届舟恒追放下付外是為  
其通事 作渡出事

幸三 南度只論之上百姓を打殺の様多仕置之事

延享三寅年十月廿五日 例 備前吉岡村 森太所

此處吉岡村同國関戸村百姓吉岡村と森太所は  
五引之儀舟及只論庭之儀石を奪取の并付  
此等事、不要為お果不届、皆下多人、お伺  
之の二、御長様多之儀、此等死罪下付外、是  
を通事 作渡出事

幸四 重十を以て其之似刺殺し以出家仕置之事

延享三寅年十月廿五日 例 上総國根本村 地 空

此地空也、但國姓朱多形、儀、儀、思才子、村人  
之判と据押を以て根本村弥院堂、此等此處、  
P觸人集を以て、儀、同村檢、是、  
以と憤り、何方を以て失、此、  
不、御金、檢、此、  
多形、儀、  
多め、  
成、  
別、  
を、

成、  
別、  
を、

幸五 其才并將之官名を附系家書記在りとの仕置  
之事

延享三寅年十月廿五日 例 浪人 本多 徳辰 寅

- 浪人 本多 徳辰 寅
- 目人 徳順
- 目人 大内 秀
- 目人 三男
- 子 系 右馬 助

此、  
之、  
左、  
能、  
大、  
遠、  
此、  
記、  
後、  
御、  
出、







お徳之と云ふは、下郡之、白紙と云ふは、  
賞後法在、中身、年、賞、法、手、形、謀、書、致、  
巧、成、仕、形、お、家、不、似、合、別、而、不、届、付、与、人、大、引、也、  
之、上、法、在、出、下、獄、門、神、宮、寺、成、と、死、深、下、付、也、と、  
お、何、を、通、也、作、後、以、事、

五九 謀書致と云ふは、  
押、の、と、賞、の、の、由、仕、也、事、

延享二年六月廿日仕置例 常州中西村 忠云清

以、忠、云、清、依、田、村、百、姓、法、在、也、方、に、余、の、所、回、園、  
治、名、村、神、之、寺、余、合、法、法、也、持、持、回、村、組、以、  
至、也、也、下、郡、之、一、白、紙、と、神、之、寺、に、是、年、賞、法、  
許、文、を、謀、書、謀、判、致、以、形、法、在、也、中、教、員、大、系、  
は、し、太、市、紙、其、の、家、人、月、に、是、も、下、の、由、法、在、也、  
効、の、以、付、賞、法、之、後、神、之、寺、に、何、の、に、太、市、紙、  
是、の、形、ま、く、不、届、付、遠、治、下、付、也、お、何、を、通、  
也、作、後、以、事、

辛 師匠之、  
お、家、市、仕、也、事、

寛延二年三月廿日仕置例 下後園吉河橋所 忠云 量

乞、助、在、裁、の、酒、狂、と、本、成、寺、に、成、付、押、伏、在、也、付、  
二、引、分、と、存、太、市、量、中、種、と、持、本、に、致、の、知、と、後、  
及、人、大、系、裁、在、連、由、の、後、乞、助、お、果、の、後、和、本、成、寺、  
病、を、附、の、在、今、を、を、二、引、分、と、致、の、後、余、成、事、  
の、得、失、乞、助、お、果、の、付、不、拂、下、中、付、也、お、何、を、通、  
也、作、後、以、事、

壬 武士お家之、  
百、姓、市、仕、也、事、

寛延二年四月廿日仕置例 但利伊村 六所云清

以、六、所、云、清、依、法、也、是、年、係、之、成、而、中、立、不、届、二、付、  
中、進、放、成、の、後、進、放、赦、免、の、由、一、觸、一、宗、有、  
人、別、帳、と、し、加、不、存、之、名、と、以、村、方、に、賞、法、在、也、  
先、年、百、姓、市、に、賞、法、在、也、未、限、三、返、之、面、に、一、と、  
六、所、云、清、女、房、引、法、の、小、作、亦、有、亦、常、女、房、方、に、  
善、長、の、因、に、捕、以、右、と、始、末、不、届、付、武、士、お、家、之、  
進、放、捕、之、因、と、捕、進、放、下、付、也、お、何、を、通、  
也、作、後、以、事、

三二 女房法外、  
女、房、法、外、之、付、切、取、の、事、

寛延二年四月廿日仕置例 下後園西親所井村 忠云清  
以、後、云、清、女、房、引、法、之、者、と、為、傷、對、一、所、











中沢産末立別合配分を以て同前より一方不属  
子付遠海にてお成之の三以得先を細室内を因合  
室内より定寄不届く成之より遂迄保の寄  
けとの室内より及見在在太谷朱子を以て成  
中の子育先と云中迄放平付外とお向を通  
は作候事

辛 切間地等より一以由答之事

寶曆七年十月十日住宣例 穀後因 奥浜郡

以那中三百拾三村に於ての大谷切間切保並地  
起返細成田を不中立由年貢も不届か不届  
致隠地以ての中迄放平付定三以得先不届との  
九年久成候を身以るも不存祖父親代の仕業  
以得々地不取之よりお向以得大谷中一箇成存  
切間切保地不換地由入之新田に毎村一付  
平付外とお向を通は 作候事

十一 主人の伴の他りとの服先を扱及程不届か後  
秋より扱方と打落の違之との一疋附給との事

寶曆八寅年三月住宣例 中野縣主吉富住 源 六

以源六成三人吉富住伴依助一不尾小倉細子  
居の依助成子扱とあかり先在の吉富住不届

侍八成誠清実子扱氣くとぬ由中常米の服先を  
扱理不届の依助をむ様打致しはよはとの見ゆる  
依助は切付いと存登入前後之を矢例に之  
淋に扱方と打落の違之八は淋苗り一付左  
と成るお果を以て侍八成伯父深川扇子橋町家主  
十と清久離て致と成候より不届此の義不  
成候より一疋清お果以成之より以る候の對  
中分と寄寄十と清中より大と通主人に寄致候に  
以るに搦ちて平付外とお向を通は 作候事

十二 山越しの吉富住の松木扱落中腹三居のの由り  
相果ゆとの相子之事

寶曆十三年二月住宣例 俱利伽羅山新町 吉富

けお清成候松木と脊頂峯下通は於瀬側直繩切  
松木扱落の山より中腹三居迄は白町仁住  
女房さんは松木不届と苗外不届の助不届  
以得候さんお果ゆと成候成不届平付外  
お向

涉産島

たぐいとの松木と脊頂峯を通は於瀬側直繩切  
松木扱落の山より中腹三居迄は白町女房さん  
お果ゆの山より中腹三居迄は白町女房さん  
中腹三居迄は白町女房さんお果ゆの山  
或所極よといふ不届の助と寄寄平付に搦ちて



中流修江 作流事

三伯父に事しをりしもの由在事

寶曆十一年二月庚寅例 相判牧野村

七

いれ七候親に所在候と伯父依後を為と兄と右兄と親の所實事とい得し依後を運羅と成ゆきに所在候此株を立度不極なるに所在候と依後を親の由申す事しをりし候不属極を付親重き悪事と云々候と申す所人出候とのと親は為多負候とのと極不極と申す若伯父に事しをりしもの伯父は負候との死罪と申定と因縁と云々候と申す可付引と申向を候 作流事

十四 武家と家来不義不礼債主之論人成ゆき家来と益人出候 江戸拵

寶曆十三年七月

一 論人成ゆき武家と家来と益人出候 江戸拵

但債通帳下取預金並に商人と不付下取出を論人打用い賃入候と云々

下取兼未い候と云々不付返る賃金成不候 以爲急度候

十五 遠國事り不義家来不義事

寶曆十三年二月

一 江戸に在る武家と家来遠國事り不義事り候と云々候と云々遠國事り不義事り候と云々書候と云々

但打合不礼候難分と一件に戸略候と云々

十六 入屋を扱ひもの由在事

明和元年十月

一 入屋を扱ひもの 江戸拵

十七 主人と親と為多負候もの由在事

明和元年十月

一 向後主人と親と為多負候もの由在事 人相書と云々下付事



六 領之地頭所為門前大勢お落致強訴ゆもの  
由仕重き事

明和八年六月

一 頭取

遠藤

但此方不取分ゆ門前よりゆもの長内家門  
人別帳突合筆録ゆもの遠藤

惣代三出門前にお落ゆもの

三十日或卒日

子頭

相殘百姓六

急度化

不

村三科

但此方不取分ゆもの長内家門

改たゆもの

遠藤

門前百姓六

各五

中退放

組

不掛

但門前不取百姓を以て然ゆもの不取届ゆもの  
不及也

一 門前内ゆもの或強訴を以て根籍は強訴

徳意の由仕重き通下付ゆ

七 一人三紙付ゆもの武家之家来由仕重き事

天明三年六月

一人三紙付ゆもの

武家之家来ゆもの

江戸掛



寺社方清仕在例書

目録

- 一 寺社御状裏書知判之事
- 一 本寺遠肖と共清仕在之事
- 一 本寺若末寺と遠出の共清仕在之事
- 一 本寺と標の共清仕在之事
- 一 若末寺法衣根若の共清仕在之事
- 一 僧孫と若末寺の共清仕在之事
- 一 傳法と標の共清仕在之事
- 一 門末法一休古法と肖の共清仕在之事
- 一 在清強辨我清法の共清仕在之事
- 一 在清初と標の共清仕在之事
- 一 宗旨中釈之際の共清仕在之事
- 一 社法と肖の共清仕在之事
- 一 裁許肖の共清仕在之事
- 一 支配場争論の共清仕在之事
- 一 寺法寺例と肖の共清仕在之事
- 一 對且方清我修の共清仕在之事
- 一 後内若境介と本を代の共清仕在之事
- 一 修後家業之際の共清仕在之事
- 一 進放成不坊の共清仕在之事
- 一 職方小寺の共清仕在之事
- 一 法脈と標の共清仕在之事
- 一 号考と標の共清仕在之事
- 一 神難極の共清仕在之事
- 一 作匠の共清仕在之事

大正六年六月

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the date '大正六年六月' and various illegible characters.)







一 後住と定海變格  
本寺と於宿の事

退院

本寺と末寺と退院の事  
清仕並の事

一本寺と本謂退の事

遠信

一 院君とてし本謂  
南住と退の事

院君  
退院

一 私曲と末寺と  
退の事

本寺  
中退放

本寺と探の事の清仕並の事

一本寺と末寺と  
末寺と成海書等との事  
但本謂本寺と没の事

遠信  
中退放

一本寺と兼掌の事  
別任の由中探の事

中退放

一本寺と末寺の由  
中探の事

脱衣中退放

一 他と末寺と自末の由  
中探の事

院退放

一本寺と礼式不在の事

院退放

若る若法衣根の事  
清仕並の事

一 根小色衣と若の事

院退放

一 年俣小く若る若衣と  
若の事

中退放

若病と若小被の事  
清仕並の事

一 謀計と若任職の  
事

脱衣中退放

本末と礼式と破の  
事

脱衣中退放

但若病と若遠宵の事  
院退放

若病と若小の事  
非方と中探の事

中退放

若病と若小と若配下の  
事

脱衣中退放



傳法を頼む事の御仕在り事

一 他宗に押る傳法に似るもの

恒退放

門未済一味古法と尙老  
御仕在り事

一 門未一味御達利古法と  
尙老澄和成り出る者  
但亦擔ぐ門未同科

中退放

一 私と云本寺と法系と  
併し失く法派に似るもの

中退放

一 又末寺の由未と  
孔武と伝はるもの

退院

一 直所経辨我辨と一の  
御仕在り事

一 御我辨の示と陸の  
事の御と様はるもの御仕在り事

空退放

一 因縁として我を云るもの  
御仕在り事

退院

一 事の御と石行因縁  
御仕在り事

閑門

一 觸下と云書法脈の  
巧お達と成思ふる者

觸法  
脱衣中退放

一 祠堂の御と津と  
棟札よ思はるもの

押込

一 論書と云る信と論書と  
御仕在り御と成り出るもの  
但論書と成り信同科

恒退放

一 御道の名を借  
御仕在り御と成り出るもの

恒退放

一 宗旨が形小陸の御仕在り事

一 私と云る御と云る御  
宗旨利陸の御

退院

一 社法と尙との御仕在り事

一 下社法として社法  
石を角を乳法修り出るもの

下社法  
御掛

一 或る別南社と云る社法と云る人  
と云る御仕在り御と成り出るもの御掛

一 本地堂と云る社法と云る御仕在り事

中退放

一 裁許尙老御仕在り事



觸江裁許不修旨各  
中付以之及修修の

觸江本寺若  
之旨重く中付以

寺の別々之旨各  
遠有修修の

中退放

支配場争論之旨許仕進之事

別当支配之社家律之  
許状を以て支配之旨  
中争の

許状を  
百日閉門

社之株札と引替別当  
支配之旨中争の

別当  
全退放

寺法寺例之旨以老許仕進之事

任持之不為知寺信修修  
中合程不修之修修修修

寺信修修  
脱衣退放

用ひらぬ書籍を論  
開板修清法の

書物修板  
中退放

年教未滿之老修中  
出世之許状世貫の

退院

世壽法願不修修修  
末寺之修修中付以老

中寺  
隠居

但許状修修次以修修修修

出世修修之旨不修修修  
本寺之修修修修修修  
許状出修の

本山  
永誓居

一派之修修修修法修  
修修修修の

閉門

但新法之修修修修一派修修之旨中付以修修  
修修修修遠意

門中修修之修修修修  
不修修中付以の

通塞

許修目之旨以老許仕進之事

許修目之旨觸江中付  
及遠有修の

遠修

許修目之旨修修修修  
法事修修の旨の

中退放

對且方修我修以老許仕進之事

且方お果以之旨謂  
教百不修修我修  
の

退院

境内無院外之旨未修修の  
許仕進之事



境内に支那の餘地あり  
大木を隠し伐採せしもの

追院

修験家業に隣りて居仕在りし事

七六三の禱奉山に限りし  
所系下りしもの名に觸  
修験家業に隣りしもの

脱衣中追放

追放に成りし所を  
所仕在りし事

不届所と追放に成りし  
所分と名及ぶ所はもの

脱衣中追放

職分と名に成りし所は  
所仕在りし事

林蔵に於て梵字を  
檢りし札に思ひしもの

卒日  
遍塞

法脈を根元居老所仕在りし事

末寺に法脈を謂  
ひ居しもの

本寺  
追院

尋老と院に居る所仕在りし事

尋付しものを院に  
不居しもの

追院

神籬且に居る所仕在りし事

一 尋得神籬且の

為且尋付

師道と取辱を與へしもの所仕在りし事

一 師道と取辱を與へ  
及出入の

脱衣中追放





Handwritten text at the top of the right page, possibly a header or title.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

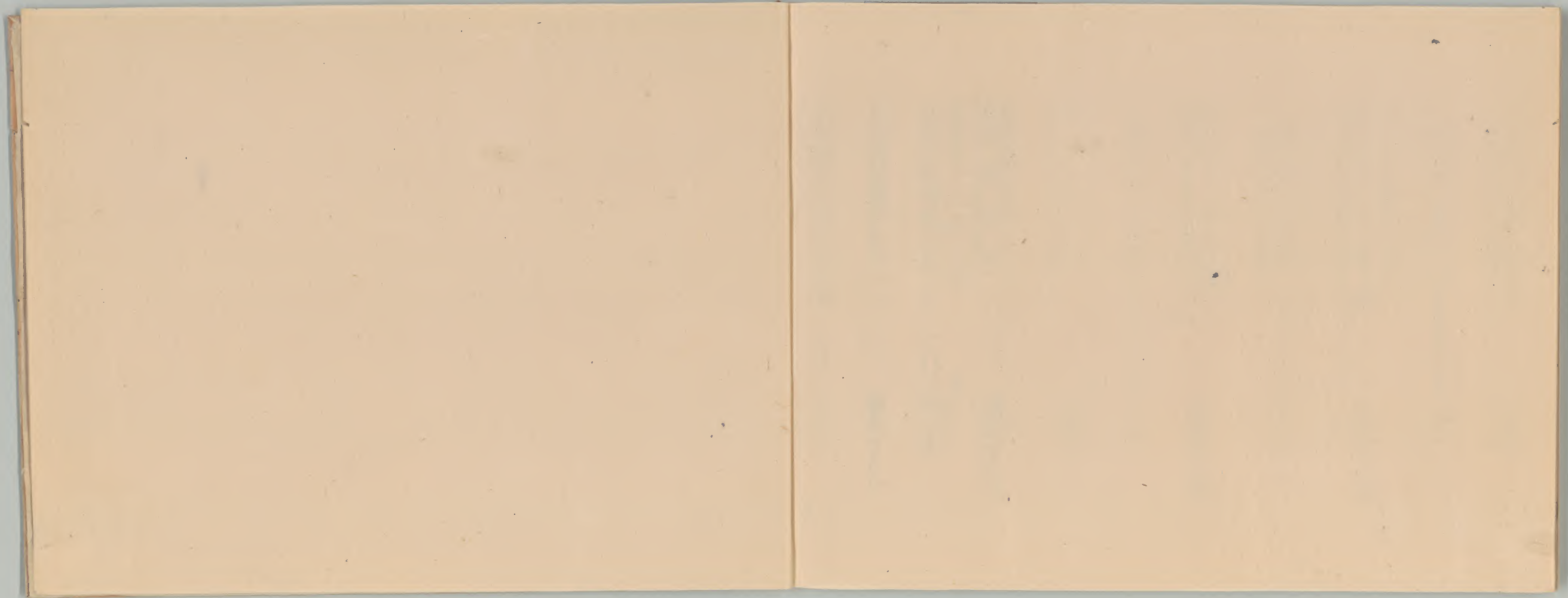
Handwritten text line.

Handwritten text line.

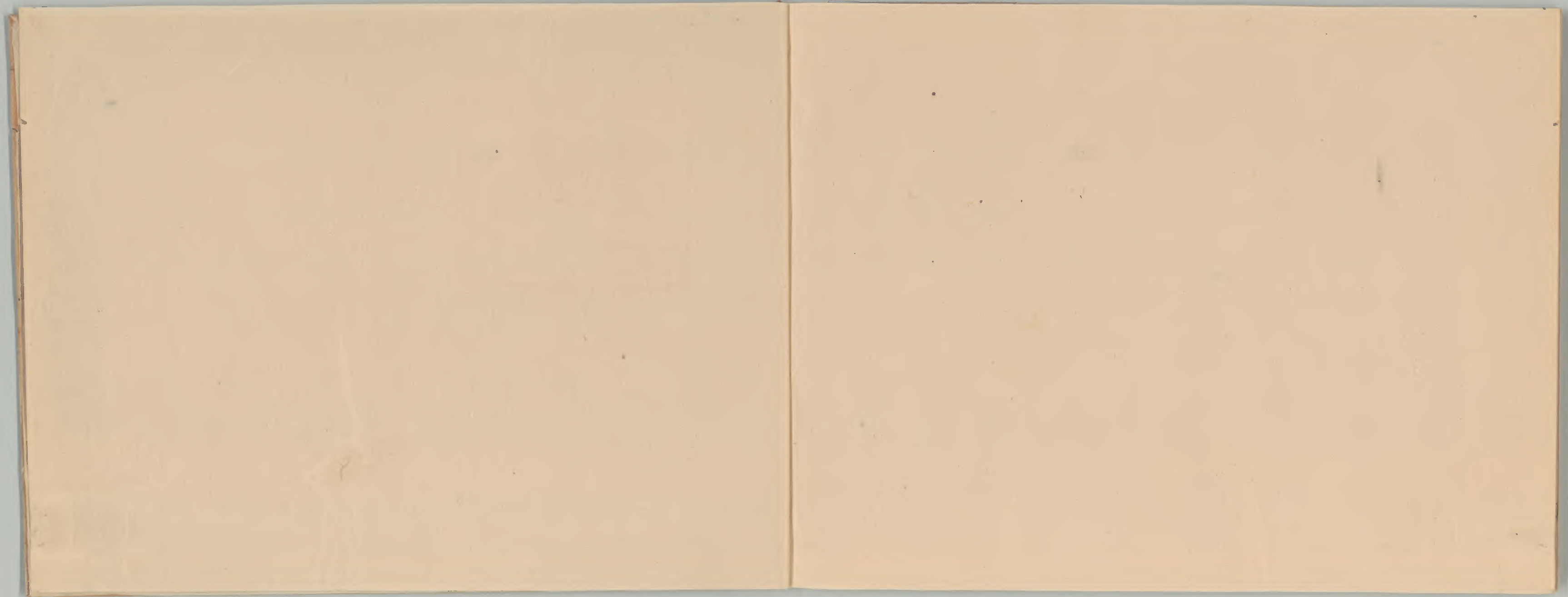


The left page of the document is mostly blank, with some faint, illegible markings or bleed-through from the reverse side.











皇朝  
圖書  
印



